

刊旬

東北高工時報

行發日廿日十回一月三每
行發集輯編
吉梅越堀人印編副
三廿町川新町平縣高福
社報時工商北東 所行發
圓一金行一料告廣
錢月ヶ一錢十金部一
圓三共稅郵年ヶ一

目丁五町平
屋(久)釜
番九九話電

小名濱商港

實現に献身する

小野晋平氏

小名濱は今や東北東海岸學才非凡群を抜き少壯上商會社を起し磐城水産工業に於ける第一の商港たらんとし地方自治の改良發達に苦業會社を創設し、製氷會社として第一の礎石を基かれ、過日一大ケーンを沈下し、他重要の榮職に擧げられ地海沿岸軌道會社の事業擴張等近代科學と人力との協和にはなく其聲望實に偉大である。先年衆望を擔ふて縣會議員に當選赫々たる業績を付けられる日も遠くはあらず、議員に當選赫々たる業績を縣治の上に印した。



小野晋平氏

小野晋平氏は父實司氏の遺業を承繼し郷土に捧ぐ氏が殉郷の熱血は中央政界の一陣筭議員たるよりは大小名濱商港創建の恩人として輝やかしき足跡を遺す方が賢者の生活態度である事を確信して郷土に殉献した。

今氏の横顔を素描しやう氏は明治十八年十月十六日小名濱町に生る。故實司氏の長男である代々酒造業と威者にして名利私慾に走らして名聲あり正徳四年の創す地方問題に東奔西走して業にして其の歴史に調して私財を投じて者まざる其の性情の皎潔なる他に其比を以て前町長鈴木榮氏時代より収入役、助役の要職にあ

小名濱町名助役

高木保氏

氏は明治廿六年七月四日大小名濱建設のために心膽を以て小名濱町に生れ、警を碎きその町政上に印した中第十一回出身の俊才である赫々たる業績は特筆大書する。氏幼にして兩親を喪ひすべきものがある、私利私人生の悲風慘雨に心膽を練慾を絶挑して一意郷土のた

以つてする絶対好箇の女房役である。氏は無類の讀書家にして時代精神を深解し、時潮に掉す新人である。豪氣の人小野町長に配するに和氣の高木氏を有する小名濱町は誠

小名濱町會議員

- 立花 勇七
- 飯塚 藤右門
- 高木 惣治
- 小松 重兵衛
- 西丸 猛
- 福尾 伊太郎
- 村上 淨代二
- 江尻 甚太郎
- 近藤 安雄
- 野崎 亟之助
- 藤社 重吉
- 伊藤 經太郎
- 岡山 重喜
- 吉田 龜之助
- 堀越 定吉

佐川 榮次郎
小濱 長太郎
國井 忠太
松本 徳次郎

小名濱新松屋菓子菓屋
千鳥羊羹
御味覺百やみやみ
座王のげやみ御
トンセーパ百覺味
番五十七話電

入荷豊富
大衆向の
布袋屋書店
小名濱古港一

内科、小兒科
花柳病科
佐瀨 醫院
小名濱町中町

暑中御伺

平町會議員
研究會一同

平町大町
磐城 同業組合
電話平 三二九番

平町新川町
區長 長 小次郎

平町本町通三丁目十五
大黒屋勝次郎商店
電話一六番

平町驛前
秋山メガネ店

平町三丁目
三井 吳服店

平町七丁目
正金商會
電話三九〇番

平町田町
三三三屋
電話三二三番

平町新川町二七
諸橋外科醫院
醫學博士 諸橋鐵彌
電話四六四番

縣議補欠政戰展望

石城政界の兩古豪を 小壯闘士との決戦

赤坂縣議病に倒れて来る多来塔ひ來れる地盤を金城八月十四日を期して補缺選湯池として死守し斷然優勝舉は執行せらるゝ事となつて期して政戦の秘策を盡した。

政友會側の希望としては無野三郎氏も多年黨人として競争を以つて圓滿に行ふべし千軍萬馬の實戦に修練積んも民政此の交渉を一蹴して雪辱戦の戦意旺盛にして決名利權勢に淡々たる翁の心、あつた。

前回の惜敗者草野三郎氏を死の覚悟を以つて必勝を期境は昭々皎々たる秋月の如此度計らずも甲合戦の政戦確立して政戦場に見ゆべくして決戦すべく更に他方新國民同盟側より新勢力を代表する松本清之助氏も少壯の意氣物凄く既自適の生活を營み故山上遠れど翁が憲政奉仕の心意氣松本清之助氏を絶對支持し成政黨の牙城此一舉に打倒野村に隱者の生活を送りつはまさに烈士暮年壯心旺ん

牙城に肉薄すべく大同團結殊に最近既成政民兩大政黨に對する國民の信託薄弱なした、

かゝる事態情勢を觀取して今日、政界革新を標示し政友會側も評議一決故赤坂で立つた新日本國民同盟の毅一氏の叔父に當る元代議新勢力の勃興は蓋し此度士にして石城政界の大先輩の政戦に於て既成政黨の勢たる赤坂龜次郎氏を擁立し力を相當に脅かし或は意外

に茲に政民の兩古豪、赤の得點を獲得するやも知れ坂、草野兩翁と少壯闘士松本、熱殺する向日八月の石本氏との間に雌雄を決する城の天地大衆の墮眠を警醒次第となつた。

概して補欠戦といへば政戦の熱底が常であるけれど又も清き一票の行使についとも由來石城の天地は政争は來た、

激烈なる鬪争愛好の環境であつて、而も政友會は所謂甲合戦の悲壯の意氣に燃え

赤坂龜次郎翁

赤坂翁は石城政界の大先づつた。達にして少壯三田山上禍澤一人の甥、故赤坂毅一氏に門下となり兇魔に倒れた故翁の志を繼承せしめ只管毅

翁は昭々皎々たる秋月の如此度計らずも甲合戦の政戦確立して政戦場に見ゆべくして決戦すべく更に他方新國民同盟側より新勢力を代表する松本清之助氏も少壯の意氣物凄く既自適の生活を營み故山上遠れど翁が憲政奉仕の心意氣松本清之助氏を絶對支持し成政黨の牙城此一舉に打倒野村に隱者の生活を送りつはまさに烈士暮年壯心旺ん

草野三郎氏

氏は明治三年七月一日生氏は故若松美三氏の盟友にれにして幼より學才非凡、して石城民政黨の最高幹部性豪氣果斷抜群の秀才であであり比佐代議士政界進出のためには秘策を惟握に練

日清の役に参加して勳八等り千軍萬馬の黨人として石露の役に勳七等を授けら城に於ける選舉通の第一人

松本清之丞氏

警中十三回出身の秀才にして後水産學を修め海洋水

産事業に精通してゐる。後無産階級解放運動の旗頭として勇躍に鬪争第一線に躍出した。

先年其の政治理想に非常の開をなし新興勢力新日本國民同盟の陣營に参加し、今は支部長の要職にある。

此度の一戦に政民既成政黨の牙城を一舉に倒すべく奮起した氏の豪氣なる意氣に共鳴して幾千青年大衆の絶對支持を得て相當の得票を獲得する事だらう。

暑中御伺

双葉郡木戸村材木商

石川淺次郎

双葉郡木戸村木炭精米

渡邊操商店

双葉郡廣野村内科外科小兒科産婦人科

野村醫院

相馬郡原町鍋屋號萬金物

佐藤清四郎商店

相馬郡小高町内科一般

鈴木醫院

會津東山内湯旅館
白瀧旅館
電話四番

新瀧旅館
東山温泉湯の花羊羹

松本家本舗
温泉土産に名産湯の花を

松下爲藏
會津若松

山口儀平
酒會津一

葛岡合名會社
若松市材木町倉庫業人參商

成田太助
鹽川町長

田邊精一郎
助役

栗原千代吉
翁島村

二瓶熊太

暑中御見舞

長瀨村川桁
日本硫黃株式會社

耶麻軌道部

會津沼尻中の澤温泉
磐越西線川桁前より四十分軌道の便あり慢性腎臟病、皮膚病、婦人諸病に特效あり

西村屋
朝日屋
扇屋
白城屋
花見屋

沼尻温泉
田村旅館
磐城屋旅館

横向温泉
瀧川屋旅館

社告
永山秀夫

右の者今般本社員として入社致し候間同分共に御同情願上候
東北商工時報社

暑中御見舞

田村郡三春町

町會議員

耶麻郡熱鹽村

村會議員

橋本佐久 遠藤千代久
 佐久間廣治 渡邊源吾
 橋本常治 遠藤多仲
 國分義衛 荒木文次
 木田將之助 遠藤光人
 佐々木莊治 遠藤久太
 高原太利四郎 爪生善八
 宗像倉吉 遠藤寅八
 橋本今朝四郎 上野正一
 今泉廣吉 横山源次
 西澤善太郎 遠藤千代喜
 内藤傳太郎 小林慶次
 熊田文一郎
 渡邊喜三郎
 三浦正壽
 大越巳木藏
 井堀今朝藏
 橋本捨五郎

野木喜久次
 全消防組頭
 綠川理吉
 全郵便局長
 赤坂運作
 全助役
 大樂彦次郎
 東白川郡竹貫村長

耶麻郡猪苗代町

町會議員

順田直吉

鹽谷吉重郎

八子彌壽平

松江四郎平

遠藤染藏

長谷川寅三

酒井庄吉

淺井甚一郎

青木常吉

小林平一

鈴木常三

丸山七郎

河沼郡川西村

村會議員

佐藤政興

山内勝美

佐藤淺之助

佐藤代四郎

渡邊太壽

大島友江

永山寅八

關口喜代壽

吉田芳美

大島義雄

康司光次

鈴木作太郎

門田村

渡邊又三

北會津郡門田村

村會議員

三星泰一

樋山豐記

阿部丑次

穴澤幸

大竹喜作

大竹新藏

猪又長藏

土田彦太郎

成田勝美

歌川市太

齋藤武雄

小松忠靜

江關佐吉

大竹小一

松島與四郎

本田忠吉

齋藤甚太郎

渡邊鹿三

河沼郡坂下町

町會議員

廣木三郎治

國分三郎

富岡勝吉

島見房治

江花勝治

平野嘉次

齋藤惣吉

磯目八十吉

佐藤助四郎

村上常吉

小林勇之

上野留五郎

加藤長一郎

桑原忠三郎

大堀德次

蓮沼小三郎

武藤万次郎

坂下町

江川清次郎

坂下町

小島勇

佐藤金三郎

上三寄郵便局長

山田英二

上三寄丸通運送

上三寄出張所

猪苗代町

株式共立銀行

喜多方郵便長

春日重明

喜多方町

銀町街

藥草買入所

加賀半藥局

喜多方町

風間善九郎

喜多方町

矢部善兵衛

猪苗代町長

山本親武

若松驛前

土木建築請負業

金子德芳

全榮町

根本熊太郎

山田榮次

喜多方町

土木建築請負業

山口平一

河沼郡坂下町

土木建築請負業

太田芳太郎

蓮沼新一

野澤町

土木建築請負業

和久井豊次郎

吳服部、材木部

小柴源次郎

電話六七番

齋藤龍多郎

坂下町

藤原善吉

野澤町區長

鈴木荒三郎